



和泉観ボラだより



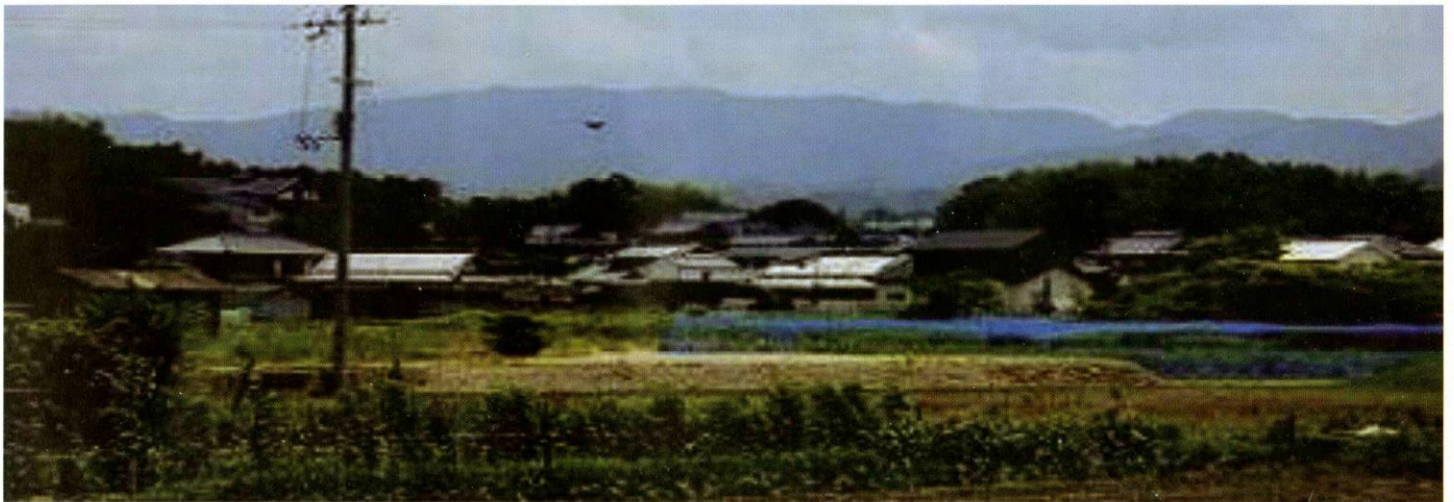
第9号 2014.7 発行

〒594-0041 和泉市いぶき野五丁目 1-1 (和泉中央駅構内) 和泉市いづみの国観光おもてなし処気付「和泉観光ボランティア」

TEL/FAX : 0725 (56) 5200 E-mail bwz11423@nifty.com <http://blog.goo.ne.jp/kankou-izumi/>

泉北・泉南地域の地質・地形 (I)

和泉山脈は7000万年ほど前にできた



この写真の風景は、和泉市近辺から南にカメラを向けて撮ったものです。遠くに見える高い山脈は和泉山脈で、航空レーダーのある山は、和泉市の最高峰 三国山 (886m) です。和泉山脈は東から西に標高 800m クラスの山々が連なっていて、少しずつ高度を下げながら和歌山市加太海岸へと延びています。よく見ると和泉山脈の北側 (写真手前) に低い前山があるのに気が付きます。そこには父鬼川や牛滝川が流れています。さらにその前には丘陵が広がり、その手前には田畑があり、村落の薈が望めます。ここではこれらの地形と、それを構成する地質について2回に分けて簡単にご紹介したいと思います。

中生代とよばれる地球上に恐竜が闊歩していた時代、地殻変動で大きな窪地ができました。その窪地は、西は国東半島から四国の北側を通り、淡路島の南を経て現在の和泉山脈のある辺りまで伸びており、そこには海水が入り込んでいたと考えられています。この窪地に当時すでに山地を形成していた前山から土砂 (石や砂、泥など) が水によって運ばれてきてその窪地に堆積していきました。この窪地を「堆積盆」といいます。土砂が堆積すると堆積盆の底は次第に沈降し、堆積層が厚くなり、さらに堆積盆の中心が西から東に移動して、堆積層 (以下 地層という) はますます厚くなりました。このようにして形成された地層を「和泉層群」といい、層厚は10,000mにも達するそうです。堆積した期間は中生代白亜紀の後期と考えられ、おおよそ1200万年に亘り堆積が続いたことが産出される化石などから推論されています。

ここで今では和泉山脈より低い前山について少し説明をしておきましょう。これらの山々はマグマが地下深くでゆっくりと冷えて固まった花こう岩類やマグマが噴出して固まった流紋岩類などからなり、それらが白亜紀前期に急激に隆起して、山地を形成

したものと考えられています

今の前山よりかなり高かったようです。和泉層群には前山を形成している岩石の破砕物が多く含まれていることから、前山が浸食されて海底等に堆積し、和泉層群が形成されたと推測されています。

やがてこの地域の南側に沿う大断層帯である中央構造線の左横ずれの動きによって大規模な地殻変動が起こり、和泉層群は褶曲や断層を伴いながら隆起し、和泉山脈が形成されました。国東半島や四国の讃岐山地、淡路島の諭鶴羽 (ゆづるは) 山地も和泉山地と同じ由来によるものです。さきに述べたように、和泉層群の地層は非常に長い期間、堆積していたため土砂は押し固められ、さらに地殻変動による強い力を受けて一層固結が進み固い岩石になりました。堆積によりできたので、堆積岩と呼ばれ、石ころが固まったのを礫岩、砂からできているのを砂岩、シルト (泥) が主成分の岩石を泥岩といいます。貝塚市蕎原の泥岩層からは、中生代に生息していたアンモナイトや二枚貝の化石が産出しています。

この変動を境に、地質時代は新生代に入ります。
(次ページに記事は続きます)

泉北・泉南地域の地質・地形って歴史があるんです！

大阪層群の堆積・形成 和泉山脈が形成されてのちに、再びこの地域に堆積盆ができてそこに地層の堆積が始まります。約200万年前から150万年に亘り堆積が続き、六甲変動という地殻変動により隆起したと考えられています。太平洋戦争終結後、天然ガスを調査する段階で発見され、「大阪層群」と名付けられました。山側から海側に緩やかに傾斜しており、層厚は和泉山脈に近づくほど薄く、大阪湾に近づくほど厚くなり、海底にまで続いています。和泉では南部丘陵に、露頭（野外において地層・岩石が露出している場所）を見ることが出来ます。和泉層群の地層は固結して岩石になっていますが、大阪層群は堆積した時代がまだ新しく岩石にはなっておらず、土砂が層状に重なっている状態です。大阪層群のもう少し詳しいお話とその上に堆積した新しい地層については次号でご紹介いたします。

中生代	146.5	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・流紋岩類噴出 ・花崗岩類隆起 ・堆積盆北縁山地 - 前山形成（～後期）
	65.0	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・堆積盆形成 ・土砂の堆積 ・和泉堆積盆の西→東へ移動
0 現在			<ul style="list-style-type: none"> ・中央構造線断層帯活動 ・和泉層群断層褶曲を伴い隆起《7000万年前》 ・和泉山脈形成
新 生 代			

※数字は百万年単位以前

国の有形文化財・西教寺



西教寺は、もとはわら葺の会所で京都福専寺の支配下にあったが、寛文十年（1670年）に、西本願寺から寺号、木仏（康雲作：阿弥陀如来立像）を受けて「惣道場」から西教寺に改名した。寺伝では延宝元年（1673年）11月創建と伝えられているが、太閤検地等の史料ではそれより遡る。

寺は、信仰の場だけではなく、大正十二年（1923年）南王子村水平社の旗揚げ場所になったり、小学校になったり…という歴史の変遷もあった。訪れた日は、耐震化工事の真只中…南無阿弥陀仏！

阿耨山・西教寺（あのかざん・さいきょうじ 幸三丁目）が、3月18日、国の文化審議会において登録有形文化財（建造物）に指定された。寺院は本堂（文化五年1808年に再建）を中心にした伽藍一式、山門や鐘楼、太鼓楼などの江戸から明治にかけて整備され、良好に維持保存されていることが認定された理由だ。浄土真宗本願寺派の寺院で南王子村だった江戸時代、村人と共に村、寺ごと現在地に移住してきた歴史を持っている。

小栗街道沿いの八坂神社鳥居横（高札場）から府道泉南線方向に一筋入ったところにある。以前から本堂前庭にある樹齢500年超のイブキは府天然記念物として指定され有名。

今回、伽藍一式が国指定になったことで貴重さを増す歴史遺産になったことだけは事実だ。

寺院を維持保存してきた村民や現町民の苦労や努力がそこには存在している。建造物や木を見るだけでは、様々な昔の人々暮らしや思いは簡単には伝わってこない。国の文化財になったことを機に前述のような人々の思いにほんの少しでも擦り寄ってみるのも一つの観光の営みだろう。

西教寺のみを目的に出向くもよし！市内観光のついでにコースに加えるもよし！多くの人々が見学に訪れる和泉市の観光遺産になることが一番の期待である。宗派は違っても、歴史的な文化財として観てもらいたい。（無神無仏筆）

槇尾山施福寺を訪ねて…

施福寺（せふくじ）は、天台宗の寺院で、通称槇尾寺（まきおでら、まきのおでら）。山号は槇尾山（まきのおさん）。本尊は弥勒菩薩（札所本尊は千手観音）。槇尾山の山腹に位置する西国三十三所観音霊場の第四番札所であり、和泉市内、大阪府内だけではなく、全国から札所巡りをされている方が訪れる寺のひとつ。

深山路や 檜原松原 わけゆけば

槇の尾寺に 駒ぞいさめる（御詠歌）

バス停を下車したあと、急な坂を登ると山門がある。春には桜、石楠花、新緑、早朝には鳥の囀り、秋には紅葉というように四季折々の風景は見事である。また標高 485 メートルにある本堂前から、岩湧山が臨める。桧原越で西国第三番札所である粉河寺へ、山の稜線歩きを楽しむダイヤモンドトレールへ、ハイキングコースへと、様々なルートもある。

5月の研修では山門までの往復だったけれど、その間にも滝、山門の厳かさ、新緑の目映さ、そして下山してこられた西国札所巡りのかたとの交流など、発見や出逢いがあった。

槇尾山施福寺 本堂

所在地	和泉市槇尾山町 136
山号	槇尾山（まきのおさん）
宗派	天台宗
本尊	弥勒菩薩
創建	伝・欽明天皇時代（勅願）
開基	伝・行満上人
別称	槇尾寺
札所等	西国三十三所第四番 和泉西国三十三所第一番



観光ボランティアメンバーお薦めのウォーキングコース

和泉には歴史もミステリーもいっぱい眠っています。一度ゆっくり歩いてみませんか？

（JR 阪和線からのコース）和泉北部地域のミステリー探しウォーキング

北信太駅→葛の葉稲荷神社（狐が変身した樹？）→旧府神社（石になった狐がいる？）→西教寺（梨の木のでそばに植えてはいけない樹がある？）→佐竹ガラス（煙突が他の役目を持っていた？）→人造真珠（初期の製造原料は？）→信太の森ふるさと館界限（狐が鏡代わりにした池？）→聖神社（説明板と違う？）→惣ヶ池水源地（前保護の場所と言われる理由は？）→蔭涼寺（人で鳴り続ける鐘とは？）→山荘不動院（どうしてこんな場所に？）→泉井上神社（この神社の狛犬は何故風化が早い？）→西福寺（雷を閉じ込めた石でふたをしたのは誰？）→小栗街道（熊野街道のはずがなぜ小栗街道？）→和泉府中駅（約 5～6 時間のコースになります）

【 和泉の新しいスポット and 秋に向けての情報 】

種、苗、樹木をはじめとして園芸関係の販売をしている福瀬にある「国華園」では、秋には全国からの出展がある「菊花展」が開催され、多くの観光客が訪れます。バスツアーにボランティアガイドとして添乗することがありますが、阪和自動車道・岸和田和泉インター近くに大型商業施設「コストコ和泉倉庫店」が大阪府内初のオープン（6月1日）、秋には隣接で「ららぽーと和泉」がオープン予定であり、和泉市の新しいスポットも説明させていただいています。

輝く昭和に第一線を生きてきた、職業体験もバラバラ、また経験してきたボランティア活動もバラバラ、そのような人々が集まり、日々研鑽に努めてきたガイドクラブが「和泉観光ボランティアクラブ」です。

「むかしむかし、あるところにおじいさんとおばあさんが住んでいました…」で始まる話がありますが、ガイドのメンバーは、右も左もおじいちゃん、おばあちゃんたちですが、元気な平成の現役集団です。

和泉市の民話・伝承の神社仏閣、花の里、弥生時代の暮らし、小栗街道（熊野街道）の歴史・文化・特産物、そんな和泉の素晴らしい財産、あらゆるものを楽しみながら紹介するガイドです。

泉北高速鉄道・和泉中央駅構内に「和泉市いずみの国観光おもてなし処」があります。

「いずみ観光ナビ」http://www.tourism-industry.izumi.osaka.jp/contents/kankou/kankou_guide.html より、ガイド申込書をダウンロードして、観光日時、希望のコース、代表者の連絡先をご記入のうえ、下記連絡先に FAX していただくと、ガイドクラブに取り次いでくれます。連絡が届きました時点で、観光ボランティアクラブからコースについての相談をさせていただきます。電話でも受付けています。



連絡先・和泉市いずみの国観光おもてなし処

開所時間・10:00～18:00 定休日・月曜日（祝日の場合は翌日）年末年始

電話・FAX 0725 - 56 - 5200



和泉観光ボランティア日誌

和泉市内を「お・も・て・な・し」で、ご案内しました

新緑の5月、大阪市内天王寺から観光バスで和泉巡りへ来られたお客様をご案内しました。和泉市のゆるキャラであるコダイくん＆ロマンちゃん、和泉観光ボランティアクラブのガイドでお迎えしました。「前にもガイドしていただきましたね。覚えています。」という和泉ファンの有難いリピーターのお客さまや、「ガイドさんとツーショットをお願いします。」と記念撮影されるお客様もおられました。

「いずみふれあい農の里」のいちご農園での「いちご狩り」では、農園の方に各種いちごのいろいろ特徴を聞きながら、4～5種類のいちごの食べ放題を堪能しておられました。「ここからあべのハルカスが見られるんですよ。」と説明すると、みなさんがあべのハルカス探し。「あっ、見えた〜」。「いつもは見上げていたのに、ここだと真正面の同じ高さに見えるね。」というお客様の声に、「そうなんです。この高さはあべのハルカスと同じ300メートルだからなのです。」と説明しました。



ちょうど、みかんの白い花が咲いていたので、和泉特産の“いずみきりり”という愛称が命名された地元のみかんの説明も加えました。ぜひ、秋にも“みかん狩り”にお越しただきたいと思います。「道の駅・山愛の里」では、和泉市グルメグランプリを受賞した人気の“みかんくるみもち”、米粉パン、コダイくん＆ロマンちゃんの絵入りのパンが人気のため品薄になっていました。観光バスが停車するたびに、たくさん和泉の名産をご購入いただきました。

そのほか、人造真珠とガラス細工を販売する「リアーナ」、歴史の古い由緒ある「葛の葉神社」、宮本武蔵直筆の枯木鳴鶴図が運よく一般公開されていた「久保惣美術館」を訪ねました。和泉の豊かな自然と食と文化と特産品を知る「ええとこてんこ盛りの旅」だと感じていただけたのではと思っています。わたしたちガイドも楽しいひとときでした。また秋にお逢いしたいです。
(智慕里記)

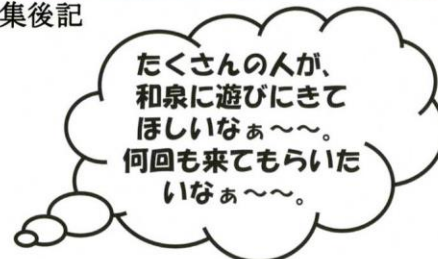


和泉を知るためのお薦めの1冊③ 和泉のむかしばなし



「榎尾のサルとちえくらべ」「和泉の名前の由来」をはじめ、こどもにわかりやすい「和泉のむかしばなし」が15編載っている本です。今年5月に和泉市立和泉図書館より発行されました。フューチャー和泉の和泉図書館、和泉シティプラザ図書館にて500円(税込)販売しています。

編集後記



たくさんの方が、
和泉に遊びにきて
ほしいなあ〜。
何回も来てもらいた
いなあ〜。

「和泉のむかしばなし」を読みました。読みやすいので、小学生にも好評と聞きます。



新聞にも紹介されて、在庫切れで予約入荷待ちという情報もありました。市内の人にも、市外の人にも読んでもらえたらいいなと思うイラストもストーリーも素敵な1冊だと思います。読むということ、知るということ、学ぶということ、聴くということの大切さ実感しています。
(Maki)